

企業家に聞く《第2回》【サラヤ株式会社】

日時：2021年1月21日（木）14:00～15:45

場所：Web 開催

テーマ：「ビジネスはチャレンジしよう～世界と地域の持続可能性～」

講師：更家 悠介 氏（サラヤ株式会社 社長）

はじめに

今日は皆さんにお話しする機会を与えていただき、本当にありがとうございます。今、コロナで世界経済は日本も含めてダメージを受けています。でも、必ず再生してきます。昔と同じ形には戻らないと思うので、この再生に関わってわれわれも元気を出してチャレンジしなければいけません。そんな趣旨でまずお話しさせていただきます。

チャレンジといっても闇雲にやるわけではありません。2025年に開催される大阪・関西万博が一つの大きなイベントです。オリンピックも今年必ずやってほしいと思いますが、その先に万博があります。万博のテーマである「いのち輝く未来社会のデザイン」、これをビジネスの中にどう取り入れられるかが大きな課題だと思います。

私が大学1年のときに大阪万博（1970年）があり、6400万人が大阪に集まりました。これは大きなインパクトがあったように思います。私はその後、大学院はカリフォルニア大学バークレー校に留学して、1人1室もらって自由な学生生活を過ごしていたのですが、そういう時代を通じて世界観やチャレンジ精神を学んだような気がします。

これからのビジネスを考えたとき、やはりグローバルな問題が幾つも出てきます。例えば地球温暖化、生物多様性、プラスチック海洋汚染、貧富の差の拡大もそうです。トランプ氏は今日で退いてバイデン氏が大統領になりましたが、トランプ氏はアメリカ・ファーストでナショナリズムを掲げていました。それから、リージョナリズムということで、例えば関西、大阪、私の会社のある東住吉といった地域の話もあれば、グローバリズムもあります。やはりグローバルで解決すべき問題が急速に出てきているので、地域と世界をどう結び合っていくかが重要です。これは大きなヒントになるかと思いますが、先ごろ「気候非常事態ネットワーク」というものをつくりました。

日本は太平洋の端にあり、太平洋が温暖化で温かくなると必ず台風が起きて、日本は大雨になります。2019年には、ファクサイやハギビスなどの台風が来て、2018年には関空が被害に遭いました。このような異常気象は直接われわれに影響を与えていますが、最近の豪雪も、日本海で水分が蒸発して雪になって襲ってきているわけです。夏は雨、冬は雪という異常気象です。日本は間違いなく非常に大きな異常気象リスクのある国になっており、それをわれわれがどう考えてビジネスをやっていくかが重要です。異常気象は世界中で頻発しています。私たちの未来をどうしてくれるのかと、子どもたちによるプロテストが起こったりしていることは皆さんもご承知のとおりです。

気候非常事態ネットワークの設立について

ここからが本題です。昨年11月18日、気候非常事態ネットワーク（Climate Emergency Network：CEN）を設立しました。230～240の大学、企業、団体、地方自治体が設立に参画していただき、特に千葉商科大学には非常に熱心に活動していただいています。

まず、地域が気候非常事態を認識した上で、これを解決するためにはどうすればいいかという CO2 削減プランを作ります。行政だけがやるのではなく市民や企業と一緒にやるということで、われわれは企業活動を通じて貢献できることをこれから研究し、地域のルールを変えながら実践していきます。そして、2050 年にはカーボンニュートラルを目指す、すなわち二酸化炭素排出をゼロにすると菅さんが言っているの、それに沿って事業化していこうという団体です。11 月 25 日に、日経のシンポジウムでもこのことを議論しました。

弊社はレース・フォー・ウォーター財団（プラスチック汚染から海洋を保護する活動を行う組織。2010 年にスイスの起業家マルコ・シメオーニ氏により創設された）をサポートしており、オリンピックから万博にもお話をし、世界中の海とその活動をつなげるような活動ができないかと計画しています。今、プラスチックの海洋汚染が広がっていて、海流でどんどん寄せられて 200km にわたってマイクロプラスチックが漂っているような海域もできています。これをわれわれはビジネスで解決することを目指しています。では、そのソリューションは何でしょうか。われわれも考えていることがあり、たくさんの人にも参画していただいて、解決策を講じながらビジネスを発展させていくということです。

今年はコロナでほとんどご招待できなかったのですが、プロジェクトに参加する研究員たちが乗船する船に 2020 年 9 月には松井大阪市長と吉村大阪府知事に来ていただきました。これから、日本を起点に 2025 年の万博まで世界中を回そうかというプランを作っています。

また、マグロもいつまでいるか分からないということで管理しています。ウナギは少し獲るのをやめた途端に戻ってきました。生物多様性、資源の持続可能性、温暖化、プラスチック、貧富の差、いろいろな問題があります。これをビジネスで解決しないといけない。これを実践しないといけないのです。

2011 年 9 月には、「ウォールストリートを乗っ取れ」ということで、ものすごい勢いでやっていましたが、若者はここからエネルギーが続かずに、しゅんとしている人が多いように見受けられます。特に若い世代の方はエネルギーをもう少しレベルアップして、ビジネスにチャレンジしていただくことが大事かと思います。

人類の経済史とこれから

話は変わりますが、南フランスのドルトーニュ県にラスコーという洞窟があります。1943 年、子どもが飼い犬を連れて行ったら犬がどこかへ行ったので、探していたら、この穴の中にいたのを見つけて、中を見ると壁に牛や生物の絵が描かれていたのです。300m ぐらいの長さで洞窟の中に絵が描かれていて、これは一時オープンにしていたのですが、高松塚古墳と同じでみんなが見ることによって状態が悪くなってき始めたので、全く同じ洞窟のラスコー2 を作って公開しています。

2 万 2000 年前は、真っ暗な洞窟です。絵を描けるということはイマジネーションがあるわけです。絵を共有するということは、連帯していろいろなことができるということです。これは人間が動物とは違うところです。また、イマジネーションが未来も過去も含めて文章化されたり、絵になったりすると、いろいろなものが共有できます。われわれにとっては、2 万 2000 年前にこのようなものが描かれていること自体が驚きです。これはネアンデ

ルタール人とは違ってクロマニヨン人という人類の祖先ですが、彼らが2万2000年前にはこういう生活をしていたということです。

今いろいろな資本主義の本や、われわれの経済が何のためにあって、どのような体制でやったらいいかという批判や理屈があります。まず、4000～5000年前、もしくは紀元前9000～3000年などと明確に分かりませんが、四大文明が農業革命をベースに発達しました。これは Fertile Crescent (肥沃な三日月地帯) といわれる、メソポタミアから、現在戦争しているパレスチナ、それからエジプトにかけての辺りです。この地域に文明が始まったのは、まず農業が成立したからではないかと言われていています。中国黄河、インダス川流域でも、そのような形で文明が興ってきました。

農業が発達すると何が起こるかという、それまでは縄文時代のように食べておしまいだったのが、農業の余剰生産物ができると、それを貯める。貯めるということは富が蓄積されることにより支配階級を養うことができる。そして、生産のためには土地がベースになるので争いが起こる。多くの人をオーガナイズしないといけないので統治のための宗教や統治機構が生まれる。人間性や生き方についても深い洞察や指導が進むので、紀元前6世紀頃に宗教が生まれました。そして、紀元頃にキリスト教が生まれ、この辺から宗教が随分進みました。

農業社会から資本主義社会へ

農業社会がずっと続くのですが、その後、富が蓄積し、新しい体制でビジネスというのが興ってきます。その一つのシンボルは、1492年のコロンブスによるアメリカ発見です。何が起こっていたかという、一つは財産権の保全です。王侯貴族が行ったとしても財産はちゃんと保全されているということ。それから有限責任です。船に投資して、船を行かせて帰ってくると利益が上がるわけですが、座礁したり難破したりして船が損する場合があります。そのときには出した金だけがあなたの責任であるという有限責任が確立しました。また、ビジネスをコントロールする複式帳簿ができて、地中海から大西洋に舞台が広がっていきました。非常に資本主義的で、要は金を集めて、これを回転させて利益を生んで、それを分けるという行為が確立し始めました。

その後、東インド会社ができます。船を1回ずつ精算していたのが、ややこしいから会社をつくって会社に投資して、投資した会社は船を幾つも出したりと、1回で終わらせることなく、その金を再投資したりしました。東インド会社やアフリカ会社という会社が出て、その会社の株は売れますから、あなたの持っている会社の株は財産なので1回ごとの精算ではありませんということで、植民地をつくって軍隊を持ち、本国と連携しながら本国のマーケットを広げていきました。これは近世まで続きます。近世の日本にもオランダがやって来て、出島でやっていますけれども、その後、どの国と付き合うべきかでいろいろオブザーブしていたようです。

このように資本主義の環境がつくられました。宗教的にいうと、特にキリスト教では金に利子が付くことが公認されました。金はあなたが持っても、利子は神があなたに与えるものだとして、ユダヤ教でもキリスト教でもイスラム教でも、利子を取ることは禁止されていました。ただし、利子を付けないと誰も金を貸さず、金を利用しないので、いろいろな理由を付けてこれが公認されました。ユダヤ教では利子を取ることは駄目ですが、

それは同じユダヤ教徒に対してであって、異教徒に対しては利子を取ってもいいというので、ユダヤの人は金を扱うことが非常に得意になりました。ヨーロッパの大きな都市にはユダヤ人ゲッターがあり、ユダヤ人が貸金業をやる伝統は今でも続いています。

集めた金をどうするか。金をつくってこいという話ですが、奴隷貿易で金をもうけたり、アヘン戦争のように、中国に売ることがないのでアヘンを輸出して、それで戦争になって勝ったから香港を割譲せよと言ったり、暴力的なことが随分起こったと歴史上は報告されています。資本主義が金を集めてわれわれの進歩を生んできたのですが、こういうネガティブなことも起こり、それがどんどん修正されてきています。

産業革命で資本が集積してくると、機械に投資してビジネスをやろうということで、それが一つのエネルギーとなって、筋肉から機械につながる革命となりました。その革命でできた商品を、例えばインドの綿を使って織物をイギリスで作って、これを世界に輸出していく。こういうビジネスのグローバルな仕組みができました。

これを総括して1776年にアダム・スミスが『国富論』を書きます。分業と交換、例えば一つのピンを作るのに、1人が作ると30個しか作れないところ、7人が分業してやると非常にたくさんの商品ができる。それが生産性を高める。チームワークをつくって仕事をし、それを拡大していくとグローバルな生産分業となるから、富を生むのは分業と交換である。そして、人は自己の利益のために最大限の努力と研究をする。これは自分のためにやるので、他人のためにやっているのではないけれど、それは神様があなたの努力を「見えざる手 (invisible hand) で導いているから、いつの間にか社会がそれでもって富んでいき発展していく。ただし、分業が発展すると、自分の専門外については無知になるので、これは注意しておかないといけない。今でも政治に対してポピュリズムなども出ていますけれども、このようなことを『国富論』では言っています。

これについてマックス・ウェーバーは、『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』という本で、なぜ西洋では東洋や他の国に比べてビジネスもしくは産業が発展したのかを書いています。キリスト教は神に仕えるのが本旨なので、神の歌を歌い、無理なことをせずちゃんと生活して神のために働きましょう、しかし、禁欲・儉約、真面目に働いて貯める金は、世俗的な富の蓄積や神の思し召しにかなうのだとプロテスタンティズムでは言っている。だからあなたが一生懸命働いて金を貯める、それを活用するのはいいことなのだ、プロテスタントの人が考えてやっていったのが発展につながったと、ウェーバーは分析しています。

これが具体的に記されたのがアメリカです。アメリカに行った清教徒、特にベンジャミン・フランクリンの言葉を例に挙げて、例えば「時は金なり」で、農業をやっていると、別に遅れてもいいし、朝ゆっくり起きて日が暮れたら帰るとするのは、鳥や獣と一緒にだと。また、「信用は金なり」、今でもこれを忘れて信用を失う人がいます。それから、金はどんどん増えていくので真面目にやりましょうということ、約束・期限を守ること、几帳面と正直、信用の大切さや近代的なビジネスの精神が、プロテスタンティズムから生まれているのではないかというのがマックス・ウェーバーのお話です。こういう精神がベースになって、例えばバンダービルトは鉄道で大もうけし、ジョン・ロックフェラーはスタンダードオイルを設立して世界の金持ちになったし、エジソンや、テスラ、カーネギーなどが生まれたという気がします。シカゴ万博では電気が初めて使われましたが、エジソンとテ

スラの交流・直流の電力論争からイノベーションが生まれています。

われわれの若いとき、中学や高校、大学の頃は共産主義を学生共産主義とっていました。それも革命の仕方がいろいろあるというので、みんなセクトやブントといった分派に分かれて、お互いに角棒を持ってヘルメットを被って殴り合いをしていました。マルクスが書いた『共産党宣言』に、われわれもみんな影響を受けて運動していましたが、1917年にロシア革命が起こってソビエト共産党ができて、共産党が社会を指導するといいました。ソビエトが崩壊してロシアになっていますが、今でも中国は共産党が社会を指導しています。共産党は富を皆が持って、資本というよりも共産党が指導することによって最大限に活用しようという体制の違いがあります。

中国は今どちらか分からなくなっていると思いますが、体制としては資本主義の変形です。例えば、鄧小平は「黒いネコでも白いネコでもネズミを獲るネコはいいネコなのだ」と言いました。それは共産主義でも資本主義でも社会主義でも、ちゃんと利益を上げろというような意味のスローガンです。これを言ったら皆が喜んで、今まではそんなことをしたら牢屋にぶち込まれていたのが OK になったと、1990 年ぐらいから雪崩のようにビジネスをやり始めました。今で 30 年がたち、世界の大金持ちの何割かは中国人です。金を貯めた手段はいろいろありますが、10 億人の人口はバカにならないですし、これは効率の非常にいい社会制度です。こういう中で、われわれもビジネスをやっていかないとはいけません。

これを総括すると、資本とは何か、資本を活用する用途は何か。また、資本がどのようにイノベーションを起こさせるのか。ベンチャービジネス、ベンチャーキャピタルというものもあります。これらを議論しながら、社会に有用な活用をどういうロジックでやっていくかが非常に大事になります。

ロジックについて言うと、先ほどの「いのち輝く未来社会のデザイン」大阪万博があります。SDGs は 2030 年まで続きますし、菅首相は 2050 年までにカーボンゼロを目指しています。こういったフレームの中でチャレンジすることが大事です。1867 年のパリ万博には世界中の人が集まり、日本も初めて参加いたしました。例えば機械ギャラリーというセグメントでは、世界各国が機械を出して売っていました。そこで日本は何をしていたかというところ、江戸幕府のパビリオンと琉球の名を借りた薩摩藩のパビリオンを造りました。われわれもここから始まったということをよく認識すべきです。そこに芸妓さんを 3 人置いて、のぞき見のように見せたのです。これが評判になってオリエンタリズム、ジャポニズムといわれ、日本の浮世絵なども売れたし、日本に影響を受けてエミール・ガレがジャポニズムのガラス器を作り、ヴァン・ゴッホは浮世絵に影響を受けて彼自身の絵画の中に表現しました。過去を振り返れば、われわれはこういうところからスタートして西洋社会に追い付いてきたのです。当時、徳川幕府や薩摩藩が勲章を作り、万博に貢献のあった人や国、もしくは国の王様に授与していたという、けなげな努力からスタートしています。

薩摩藩にはイギリスへの留学生がいて、こういう人たちが中心になって組み建てたと聞いています。大阪の産業の創始者である五代友厚もイギリス留学に行ったと聞いています。渋沢栄一は幕府側の代表としてパリ万博へ行っていました。本人が無理してシルクハットを買ってフロックコートを着て撮った写真が残されています。渋沢栄一（1840～1931 年）は、徳川慶喜の家臣になって徳川幕府に仕えておりました。後にその経験を生かして、明治政府に誘われて明治 6 年に独立してビジネスを始めています。これは何がエッセンスか

というと、「仁義道德」です。正しい道理の富でなければ、その富は永続することはできないので、ビジネスと仁義道德を結合させろという主張でした。彼は 500 社くらいの事業会社を立ち上げました。今、日本の中核になっている企業ばかりです。著書の『論語と算盤』もそうですが、このように日本の精神から始まったということをわれわれは見習い、これがパリ万博から始まったわれわれのレガシーであるということを忘れてはならないと思います。

二宮尊徳は少し前の時代の人ですが、「経済なき道德は寝言である」と言いました。いくらいいことを言っても実践しなければ意味がない。しかし実践しても、道德なき経済は頹廢であると。では、道德というものをどう考えるかです。今の道德は何かというと、グローバルな問題と地域の問題を SDGs をもって解決していくことです。それをわれわれはビジネスの中にどう具体的に取り込むか。寝言ばかり言っていないで、ちゃんとビジネスをやりませんかという話です。

先日、鹿児島に行ったら、種子島の学校に二宮金次郎の銅像があったのです。昔は軍国主義につながるということでみんな引きはがされてメタルにされたのですが、まだ残っていました。銅像の下には「至誠報徳」と彫ってあり、誠をもって徳に報いよという意味です。徳とか忠とかいう話がありますが、その精神は見習わなければいけないと思います。

サラヤの小史

ここで、サラヤのことを手短にお話しさせていただきます。うちは三重県の熊野で代々山林業をやっていて、イカダを上流で作り、新宮に持って行って新宮でイカダを売って金をもうけていました。父親の代に大阪に出てきて創業しましたが、当時は赤痢が多くて、そのために手洗い装置を作りました。手を洗うだけで殺菌と消毒ができる手洗い石けん液と専用の容器を作り、それで創業になりました。

1960 年代の後半は、手洗いは冬場に全然売れないのでうがい薬を作ったのです。これがスモッグ対策などでたくさん使っていて、夏と冬のうがいと手洗いでビジネスができてきました。その後、1979 年に速乾性手指消毒剤をやっています。これはメディカルではなくて公衆衛生の分野で、この間も JAL で使っていてありがたいなと思ったのですが、こういうのをつくりました。

「ヤシノミ洗剤」は当時、河川の汚濁が激しくて、学校給食用に売っていた業務用洗剤が良かったので小売りをしたらどうかということで、1971 年ぐらいから始めて、ほぼ 50 年やっています。中身は変えていますが、ロングセラーになります。

海外事業、メディカル、サニテーション、コンシューマーの四つの事業部で事業をしています。今、売り上げを世界各地で増やすようにどんどん支店を作っています。2004 年から問題になっているのが多様性の話です。その年の 8 月 1 日に環境問題をとりあげるドキュメンタリー番組に出たところ、サラヤさんは環境に優しい「ヤシノミ洗剤」を作っているけども、これは環境に悪いのではないですかと言われました。「なぜですか」と聞くと、あなたのところの原料のパーム油は熱帯雨林をどんどん切り倒して、プランテーションで広げているので、これは環境に悪いことですよねと。「いや、知りませんでした」となりました。前ばかり見て仕事をしていたので、バックヤードはあまり認識がなかったのです。すぐ調べに行ったら、やはりゾウたちの生態が脅かされていたので、ヤシノミ洗剤の

せいでこんなことが起こったら困ると思いました。うちは業界の中でも使用している量は少ないですが、それでも困るということで、すぐゾウを捕まえて保護活動をし始めました。

また、昔は、緑でいっぱいだった流域が今ははげてしまっています。大きなエリアは政府が保全していますが、そこがつながっていないので、森と森をつなぐ活動をみんなやりましょうとなりました。パームの木には、年に10個ぐらい実ができます。そこから油を取ります。取った油の85%は食品用で、ラーメンやパームチョコレートに使われています。

悪いことから言うと、エコロジカルフットプリント（地球の環境容量を表す指標で、人間活動が環境に与える負荷を資源の再生産および廃棄物の浄化に必要な面積として示した数値）は、1haからアブラヤシの実が14.76t、大豆が2.47t、菜種が1.99tです。要は土地の活用としては非常にいいけれど、たまたま熱帯雨林の地域が生えやすいので、ここが非常に問題になったわけです。うちの業界でいうと、洗剤はパーム油使用商品の一部で、その中のまた一部がサラヤの商品に使われています。

2005年にそのような気があったので、生物局と一緒に「持続可能なパーム油のための円卓会議（Roundtable on Sustainable Palm Oil：RSPO）」に加盟しました。当時は20社か、30社で、今は3000社入っています。そこで、川沿いの緑が大事だと聞いているので、みんな、それが大事だとまず認識しましょうということになりました。先ほどの気候非常事態ネットワークと同じで、まずは認識から始めないと行動がスタートしないので、こういうレゾリューションとして決議文を出しませんかと提言しましたが、否定的な反応だったので、残念ながら撤回しました。

同じように翌年2月に、「ボルネオ生物多様性・生態系保全プログラム（Programme for Bornean Biodiversity and Ecosystems Conservation：BBEC）」という、環境系の団体に参加しました。「よく来てくれた、メーカーから来るのは初めてだ」と言って話を聞いてくれて、これはすごく良いと、みんな賛同してくれました。これほど当時は立場は違いました。

そして、有志の方と一緒に、Borneo Conservation Trust（ボルネオ保全トラスト）を9月に立ち上げ、私もそこからずっと理事をやっています。お金がないので、「ヤシノミ洗剤」の売り上げの1%（メーカー出荷額）を寄付するようにしました。そして日本でも、BCTJ（ボルネオ保全トラスト・ジャパン）ができました。これは独立していて、金は多少出しても口は出さんということで、みんなどんどんやっていただけたらいいです。また、環境を整えないかんということで、シンポジウムを主催していろいろやりました。

それから、オランウータンの橋のプロジェクトです。オランウータンは泳げないのです。普段は一人で住んでいるのですが、彼女が欲しい時期になると動き回ります。川で分断されていると彼女を見つけられないので、橋を造りましょうというものです。橋を架けたら、一度はカニクイザルが来て壊されましたが、完成して橋を渡っているオランウータンの写真が撮れました。ただ単に橋を架けて渡っているだけではないかと言われますが、市民の方々やわれわれの商品を買っていただいている方々も含めて、現地とつながっていくことが非常に大事です。これをビジネスにどう生かすかというイメージが大事なのです。

そして、野生動物のレスキュー活動をずっと続けています。時に生態破壊が起こって子ゾウが残されるので、子ゾウの保護も必要です。保護された子ゾウの保護園ができました。これはBCTJが中心になって、われわれも協力してできました。ただ、保護数が増えると、ゾウは2才ぐらいまでミルクを1日20L飲みますので、今まで要らなかった金が要ります。

ですから期限切れのミルクを寄付していただきながら、これを続けています。

それから、消費者の方に現地へ行っていただく消費者キャンペーンを実施し、現地で見
た感想をオープンに、ニュートラルに書いていただきました。また、RSPO 認証油を使
った商品のパッケージに RSPO のクレジットマークを付けて理解を進めています。だいぶ進
んできましたが、緑の域をつなげていこうという運動を今また続けています。野生生物の
保護地をつなげる、緑の回廊対象地がわれわれの求めていっているところでは、今はラフ
レシアやテングザルなど、メガ・バイオダイバーシティで生物多様性がありますが、い
ったん壊れてしまうと戻りませんので、ビジネスの役割として消費者と現場をつなぎなが
ら自然保護ができればいいなという発想です。

ただ、2019 年 10 月に理事会があったのですが、その後はコロナで開かれていません。

ウガンダでの衛生ビジネス

2012 年にサラヤの 60 周年記念事業を何かやろうということでユニセフに相談に行った
ところ、ウガンダでは下痢で死ぬ子どもが多いので、手洗いを普及したいと言われ、ウガ
ンダ政府と UNICEF、われわれと一緒にやろうということになりました。

手を使っての食事とお下の世話との間に、手洗いをするというコンセプトが弱い。そこ
で手洗いアンバサダーを 3500 人ぐらい村々につくっていただいて、その人たちを中心に村
の方々に手洗いは大事だということを普及しました。村へ行って子どものいる若いお母さ
んに手洗い指導したり、学校でも指導したりして、子どもが喜んで手洗いしています。

それから、病院の産科病棟 (maternity ward) にも行きました。産褥熱や新生児の下痢が
多くて死亡率が高くなっていて、病院の水も大腸菌で汚染されていました。そこでアルコ
ール消毒をやろうということになりました。病院で手洗いのコンプライアンス (遵守) 率
が高まると下痢や敗血症が減ることは、実証実験で分かっています。

結論を言うと、「良いのは分かったけど値段が高い」ということだったので、現地で生産
しましょうということで、生産工場を 2015 年に稼働し始めます。雇用もたくさんの人を使
って、といっても 20~30 人ですが、瓶詰めなど手のかかる仕事をやっています。それから、
ラウンドして病院にも「手洗いが大事だよ」という市場づくりを行いました。今まで市場
のないところに予算も含めて市場をつくりながら商品をつくるので、時間がかかります。

こういう活動があって、日本政府が主催するアフリカ開発会議 (Tokyo International
Conference on African Development : TICAD) では、マサイの方が日本の着物を着て、一緒に
記念写真を撮っていただきました。また、ウガンダのムセベニ大統領が TICAD7 で横浜に
来たときにも一緒に写真を撮っていただきました。ウガンダでは今年、コロナで随分需要
が伸びて過去の累積債務も一掃させていただいて、スケールアップした次の工場を造ろう
かという話に今なっています。昔はお金がなかったので、家の上を借りて、サラヤの広告
を町の中に 20 カ所も 30 カ所も書いたものです。

これらのことは SDGs 的にいうと、SDGs のゴール 3 (あらゆる年齢のすべての人々の健
康的な生活を確保し、福祉を推進する) になります。ゴールの中でターゲットを決めます。
それから、教育、そして実践が大事です。エボラのときにも随分活用されていて、BBC が
エボラの実況中継をしているときにサラヤの商品を机で使っていたいただきました。西ア
フリカに 1 回だけトラックで持っていったのですが、ジャングルの中をかき分けて 10 日

ぐらいかけてやっとたどり着いたので、2 回目はやり方を考えようということで、今考えているところです。

手洗い世界ナンバーワン

こうしてコンセプトが発展して、手洗い世界ナンバー1 にチャレンジしようということになりました。

WHO が手指消毒を、一番コストが安い院内感染と死亡者を防ぐための手段だとしました。今コロナで手洗い、手指消毒とマスクをしていて、病院ではガウンや手袋、環境消毒をやっています。これを WHO も推進していて、その国際会議（ICPIC）と展示にサラヤも参加して、アメリカの 3M や J&J など大手企業に混ざって大阪の中小企業が頑張っています。

ブースではアフリカダンスを入れてみんなに見ていただいたり、西洋人の方に着物を着ていただいたりしました。2019 年の展示では仮装大会をやるということで、皆で仮装して楽しみながら、シンポジウムにも参加し、盛り上げました。

カンファレンスもやりました。第 1 回東アフリカ感染会議はウガンダでやりました。また、第 1 回アセアン感染制御会議をカンボジアでやろうということで、みんな近隣から来ていただいて地ならしをしています。今、カンボジアでも会社をつくって普及活動をやり始めています。ロシアの環境感染学会では、サラヤの貢献が認められ、今年、表彰を受けました。また、7000 床を持つ中国最大の病院、鄭州大学附属病院で手洗い教育センターをつくっていただけるということになりました。今問題になっているのは AMR (Antimicrobial Resistance) で、抗生物質が効かない菌がどんどん出ていますので、そういうものに対してわれわれも参画してやりましょう、手洗いがまず大事だということです。

SDGs 持続可能な発展を目指しビジネスでチャレンジ

SDGs は 17 のゴールがありますが、それぞれ関連があります。この本旨は、経済の持続可能性、社会の持続可能性、環境の持続可能性、そして、誰一人取り残さないということです。例えばコロナであれば、アメリカのようにワクチンが行き届いている国ばかりではなく途上国でもやらないと、誰かにコロナが残っていたら、また広がってしまいます。

イノベーションという言葉はシュンペーターが言い出した言葉で、結合によって新しい価値をつくっていきこうということで、いろいろな人といろいろな交わりをしたり、いろいろな考え方をもらったりすることがヒントになります。われわれは、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジというコンセプトでイノベーションを進めていけばどうだろうと考えています。例えば、ノミの一種で皮膚に寄生するスナノミから感染する「スナノミ症」を治すローションを今、開発しています。これをウガンダの工場で作ったらどうかということで、今年、コロナで遅れているのですが、第 3 フェーズまで来ています。

Cots Cots という、宮下さんと山口さんという夫婦がやっている会社があり、ウガンダのカンパラという町で YAMASEN という日本料理屋を結構大きな規模でやっていて、われわれも一部出資させていただいています。アフリカ人は生魚を食べるのかと聞くと、やはり美味しいのでよく食べるそうです。そこで急速液体冷凍機「ラピッドフリーザー」を活用できないかというイノベーションです。うちがこれを造っています。アルコールをマイナ

ス 30℃まで冷やすと、パックにして入れると急速冷凍ができて、品質が非常にいい冷凍食品ができます。ほとんど分かりません。カンボジアでは、これをティラピアの加工に使って実証実験をやりました。今は、コロナで延びてはいますが、ケニアのモンバサという港から加工品をウガンダの Cots Cots まで届けようというプロジェクトを始めています。

ナイロビでシェアードキッチンをつくって、誰も彼もが使えて、魚を持ってきて加工・調理して冷凍して、ビジネスバリューを上げて売るというテストができるのです。そのテストができて本格的に売れるようになったら、うちのシステムを買ってねということです。ただ、現在はコロナで少し厳しい状況です。

チュニジアは地中海にあり、チュニジア人いわく、サハラの前と地中海の風がぶつかって雨を降らす、農業には最高に良い国です。このど真ん中で、今エッセンシャルオイルの抽出事業をやっています。ネロリやローズの花にスチームを掛けると蒸気にオイルが抽出されて、それを冷やすと、オイルとネロリウォーターやローズウォーターに分かれます。来年 8 月には TICAD8 がチュニジアで開催されます。こういうものをローカルな油やローカルな化粧品にして輸出したらどうかということで、私どもはマイナーな工場を TICAD のときまでに見てもらえるように計画を始めていて、今コロナで遅れているのですが、間に合えば、皆さんにぜひ見ていただきたいと思っています。

それから、エジプトは、ギザのピラミッドなどありますが、カイロからギザの方へ少し行って川を越えたところに、シモンドという合弁会社をつくって、阪大の先生にも入っていただいてホホバの木を植えています。ホホバの木は大きくなると 3 年以降で実を付け始めます。今はもうだいぶ大きくなって、これから実が採れますが、その油が人間の皮脂とすごくよく似ていて保湿効果が高いので、化粧品を作る工場の土地を現地で手当てしたところです。工場は今年 7 月に竣工します。この工場では、ホホバの化粧品「Jojoble」や自然派甘味料「ラカント」、手指消毒剤などを作ります。エジプトや中近東の人はフランス料理を食べながらジュースを飲むため糖尿病の人が非常に多いので「ラカント」がよく売れるのです。

今「Jojoble」の商品化を日本で始めています。チュニジアでは、「MedBreeze」というブランドで地中海のエッセンシャルオイルを集めて商品化したらどうかという提案をしています。

子会社のやっている事業では、イギリスのバーフットで、食品の生ゴミと農業の生ゴミを混ぜてメタン発酵させて、ガスを取り出して発電するという事業をしています。これはプラントの全景写真です。投資金額は総額 16 億円で、うちはなんとか 6 億円、借金をしたりしてかき集めて、ファンドが 10 億円出してくれています。16 億円の事業で大体予想では 6 年で返済ですが、10 年返済でファンドに対しては利回り 5.7%で了解していただいています。ゴミを集めて、発酵させて、パッケージを分離します。どろどろの廃棄物も来ます。そういうものを発酵槽に入れてメタンガスを取り出して、ガスエンジンで発電します。

イギリスでは、余った発酵残渣を品質保証をした上で農業に使用できることになっていて、重金属や有害微生物がないという品質保証さえすれば、すごくいい肥料になるのです。ガスからは 2 万 2000 世帯、1000 万 kWh、年間バイオガスを作って発電して 5 万 t の廃棄物を処理します。ということは 1 日に 150t ぐらいです。それからプラント電力自給など、いい話が多いです。これをぜひ日本でも普及したいと考えています。日本はプラントのコス

トが高いのと、農業ごみと産業ごみの系統が違っていると一緒に処理することができないので、こういうものの法令改正をお願いできればビジネスができます。

プラスチックはリサイクルの方法も、燃やし方もいろいろあります。こういうものも含めてドロドロになっているものはなかなかリサイクルコストが高いですし、また添加物が多いプラスチックもありますので、こういうものをどうするか。でも、これは誰かが何かをしないといけないので、このような環境ビジネスをやっています。

また、まだ取り組んでいないこととしては、海藻カーテンというプロジェクトです。海外の事例なのですが、日本は海洋国なので PR したいと思います。マイクロプラスチックは回収がなかなか難しいのですが、海藻を置いておくとかなりの量を吸着します。そこで、網を作って海藻を育て、育った海藻を発酵させてメタンガスを作り、エネルギー源にしようというものです。The Seaweed Company という会社が海外、ヨーロッパでやっていますが、こういう技術を取り入れて、日本でも誰かやってくれないかと思っています。この他にもいろいろなイノベーションが出てくるように思います。こういうことも私が理事を務めている ZERI JAPAN (Zero Emission Research and Initiative ※循環型社会を実現するために 2001 年に設立された NPO 法人) の活動を通して皆さんに紹介しています。

先ほどの話に戻りますが、やはりイノベーションを起こしていかなければいけません。昔の先輩方が万博で刺激を受けたように、われわれは資本もありますし、頑張ればできるのですから、あとはやる気の問題かなと思っています。弊社は「世界の衛生・環境・健康の向上に貢献する」ということで、グローバルな問題も含めて衛生や環境に取り組んでいます。特に、チュニジアの事例もあるように、地域のをまずはローカルの消費につなげていながら、場合によってはグローバルに展開し、ビジネスが発展すればいいなと思っています。

チュニジアでのエッセンシャルオイルの開発、エジプトのホホバオイル、ウガンダ、ケニアでのシェアードキッチンなど、現地の農業や漁業と関わり合い、付加価値を上げながら、われわれも儲けて彼らも儲かるような仕組みを作りたい。今までの、大きな資本を持っている人が大きなビジネスをしても儲けるというスキームではない、地域のビジネスをしていきたいと思っています。日本でも地産地消で、ラピッドフリーザーを使ったものなど、健康に役立つような、健康ビタレーザ事業（予防医学を目的としたメディカルフィットネスジムや健康志向のデリ&ベーカリー）というプログラムを開始したところです。

皆さんも、特にこの「大阪企業家ミュージアム」は、皆さんに刺激を与えてイノベーションを起こすための場所ですので、ぜひこれをご参考にしていただいてイノベーションに活用していただければと思います。本日はご清聴ありがとうございました。